

ちばだい プレス

CHIBADAI
PRESS

千葉大学
広報誌

2019

VOL.

49

AUTUMN

特集

産学共創プラットフォーム
共同研究推進プログラム **OPERA**

総合学生支援センター「ふれあいの環」

千葉大学 OBOGインタビュー



CHIBA UNIVERSITY



Program on Open Innovation Platform with Enterprises, Research Institute and Academia

ゼロ次予防戦略によるWell Active Communityのデザイン・評価技術の創出と社会実装

キーテクノロジー1

ハードとソフトの融合

キーテクノロジー2

エビデンスベースドな空間デザイン・設計手法

健康オフィス・コミュニティの開発
with 竹中工務店

オフィスやコミュニティを対象として、予防医学に基づく空間設計ツールを開発、それらを実装し、健康で活動的なコミュニティを創出します。



バイオフィリックデザインに基づいて緑化されたオフィス

健康住宅の開発
with 積水ハウス・富士通ゼネラル研究所

空気中に含まれる化学物質など、さまざまな室内環境が人の健康に与える影響を明らかにし、心身ともに健康に過ごせる空間設計を創造します。



化学物質を抑えた住宅(ケミレストウン)

地域・空間連動型ウェルネスプログラム

ウェルネスプログラムの開発
with リソル生命の森

リソル生命の森大学連携型CCRC (Continuing Care Retirement Community) 事業を通じて、自然を活かした健康プログラムを開発し、そのプログラムと呼応した空間づくりを行います。



リソル生命の森

身体・行動データの取得と活用
with イオン

商業施設を活用した地域住民の健康の維持・増進に寄与する健康プログラムを開発し、そのプログラムと呼応した空間づくりを行います。



商業施設内の歩幅チェックプログラム

評価・プログラムの改善

キーテクノロジー3

地域環境・デザイン評価シミュレータ

健康と地域環境の分析ツールの開発
with 日本電気

高齢者の健康や生活に関するビッグデータをAI技術の一種である「異種混合学習」を用いて解析します。そのデータをもとに、地域環境・空間デザイン評価ツールを開発し、キーテクノロジー1・2の評価とデザインやプログラムの改善を図ります。

大学保有の大規模データ + NECのAI技術「NEC the WISE」を活用

建物に実装

まちに実装

評価・デザインの改善

暮らしているだけで、健康で活動的になるコミュニティを目指す

千葉大学では、2007年から工学分野からのアプローチを主体に、医学分野を融合させた「予防医学」の観点で、健康増進に寄与するさまざまな研究開発を実施してきました。そしてそこで培った知見を活かしつつ、共同で研究開発を実施していた企業を含む6社(竹中工務店・積水ハウス・富士通ゼネラル研究所・リソル生命の森・イオン・日本電気)を結集し、「Well Active Community 共創 Consortium (WACo)」を組織し、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)を2018年からスタートしました。

本プログラムでは、①オフィスや住宅などハード面のデザイン・設計 ②ハードに実装するソフト面の健康寿命延伸プログラム ③それらを科学的エビデンスにもとづき評価するデータ解析ツールを連動させ、超少子高齢化社会を世界に先駆けて迎える我が国における健康長寿社会を実現します。

WACoについて、詳しくはこちらをご覧ください ▶



OPERAに貢献するプロジェクト

ちばエコチル調査 (エコチル調査千葉ユニットセンター)

エコチル調査は、赤ちゃんがお母さんのおなかにいるときから13歳になるまでの期間、健康状態や成長の様子を定期的に調べていく出生コホート(集団を追跡する)調査で、2011年度に始まりました。調査は現在も継続中で、千葉ユニットセンターでは千葉県内の14市区および医療機関と連携しています。

子どもの成長に影響を与える環境要因を解明し、健康に悪影響を及ぼす要因を減らし、子どもたちが健やかに過ごせる環境をつくることを目的としていて、その成果がOPERAプロジェクトにおける少子・高齢化対策を含めた健康な街づくりに寄与することも期待されます。

エコチル調査は、環境省で実施しているもので、国立研究開発法人国立環境研究所が中心となり、全国15カ所の地域で行っています。千葉県内のエコチル調査を実施しているのが、千葉大学予防医学センター内にある千葉ユニットセンターです。

ちばエコチル調査 調査対象地域
(参加登録時の母親居住地)



この子と未来の子どものために

ちばエコチル調査のオリジナルキャラクター「びよきち」です

日本老年学的評価研究(JAGES)機構

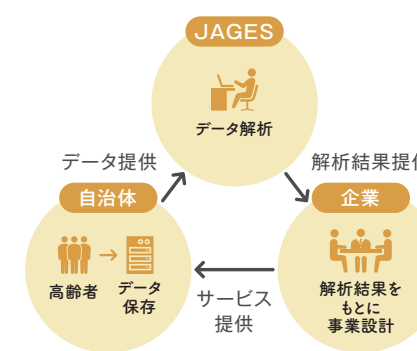
Japan Agency for Gerontological Evaluation Study

JAGES機構は、約30万人の高齢者を対象とした「健康とくらしの調査」をはじめとする、さまざまな調査研究事業を行っています。健康長寿なまちづくりの支援や介護予防事業などの評価、地域共生社会を実現するための政策提言・立案を、ビッグデータやAIなどを活用し行政・企業・学術機関と共に取り組んでいます。

この調査で集めたビッグデータは、OPERAのキーテクノロジー3「健康と地域環境の分析ツールの開発」の下地となっており、今後もさらなる解析を進めていきます。

JAGES機構は、千葉大学予防医学センター 近藤克則教授が代表を務め、千葉大学内に千葉事務局を設置しています。

JAGESの仕組み



OPERA 領域統括 / 千葉大学予防医学センター長

森 千里 教授

「ゼロ次予防」とは、運動や健康食の摂取など本人が意識的努力(一次予防)をせずとも、暮らしているだけで健康で活動的になる住空間・コミュニティを目指すものであり、建造環境を含む社会的環境の重要性に着目したWHO(世界保健機関)によって提唱された新たな概念です。本プログラムでは、学問的挑戦性と産業的革新性を併せ持つ社会的インパクトの高い「新たな価値」の創出を目指すとともに、「健康まちづくり」のキーワードで連携可能性のある新規企業の参入、組織・部局横断的な研究連携を推進する学内外からの新規研究者の参画、博士課程の新教育プログラム設置による専門人材の育成など、多岐にわたって広がりのある取り組みを進めています。

総合学生支援センター「ふれあいの環」

C-vol、チャレンジド・サポートのみり、ノートテイク会、career port、GCAP、CISGの6団体が活動中!

ふれあいの環は、学生による学生生活支援活動(ピアサポート)やボランティア活動をはじめ、さまざまな活動を展開しています。学生と学生、学生と教職員が相互にふれあいながら、イベントなどを通じて総合的な人間力を養うことを目的に設立されました。

各団体はそれぞれの活動だけではなく、福島県の富岡町立幼・小・中学校合同運動会でのボランティア支援など、団体の枠を超えた総合的な活動も行っています。

富岡町立幼・小・中学校合同運動会の支援

原発事故の影響で町全体が警戒区域に指定された福島県富岡町。避難生活の中で人との関わりが少ない子どもたちの心のケアやコミュニケーション能力の育成を目的とし、2012年からふれあいの環による富岡町立小中学校への継続的・多面的な支援が始まりました。

「富岡町立幼稚園・小学校・中学校合同春季運動会」における支援では、福島県三春町に設置した仮校舎「富岡小中学校・三春校」で行われて

きましたが、8回目となる今年は、震災後初となる富岡町立小中学校の校庭での開催となりました。学生たちは、前日はグラウンドで運動会の準備をし、富岡小中学校の児童・生徒と予行練習や給食と一緒に食べるなど、交流を深めました。晴天に恵まれた当日、三春校と富岡校の児童・生徒と町民の皆さんは丸となって運動会に取り組み、千葉大生は児童・生徒の応援と競技の補助を行い、運動会をともに作り上げました。



運動会の準備をする学生たち



C-vol (シーボル)

最新のボランティア情報の発信や、ボランティア未経験者が抱える疑問や不安を解消するための相談、ボランティアツアーの企画・運営を行うなど、千葉大生のボランティア活動のサポートを行っています。また、自らも積極的にボランティア活動に取り組んでいます。毎年9月に、千葉市内の小学生を主な対象としたサバイバル活動の体験イベント「ちばンティサバイバルキャンプ」を開催。ロープ結びや火起こし、防災トイレの使用などの体験プログラムを行うことで、子どもたちがキャンプやサバイバル活動への興味を持つきっかけや、防災意識を高めるきっかけを作ることを目指しています。

お問合せ先: chibauniv.vc@gmail.com



ボランティア支援



チャレンジド・サポートのみり

車椅子を利用するなど、移動に手助けが必要な学生のキャンパスライフをサポートしています。車椅子や身体障害に関する講習会の開催や、大学構内のバリアフリーマップの製作などが現在の主な活動です。マップには構内のスロープや多目的トイレ等のバリアフリー情報をまとめていて、製作にあたっては車椅子使用者と協力し構内を実地調査しています。2019年7月には、西千葉キャンパスのマップが完成しました。

マップは [こちら](#) からご覧いただけます▶

お問合せ先: chibauniv.minori@gmail.com



チャレンジド・サポートのみり



身体障害者支援



ノートテイク会

聴覚障害を持つ学生の講義に同行し、情報保障を行っています。教員の発言に加えて携帯電話の着信音など、周囲の「音情報」をPCでのタイピングを通じて「文字情報」に翻訳し、学生をサポートしています。また、技術の向上を目的とした練習会や、機材や聴覚障害への理解を深める研修会、情報共有のための総会などを定期的に開催し、ノートテイクの精度を高めています。

お問合せ先: info@ntkai.skr.jp



聴覚障害者支援



career port (キャリアポート)

千葉大生が自分のキャリアに関心を持ち、仕事・家庭・趣味・学問など自身の人生を総合的に考える「きっかけ」を提供していきます。

内定者と語り合う「内定者座談会」や内定者を知る「内定者インタビュー」、自分を知る「自己分析ワークショップ」を開催することで、自立的なキャリアアップを支援します。

お問合せ先: m-ogawa@le.chiba-u.ac.jp



キャリア支援



GCAP (ジーキャップ)

千葉大生が充実したキャンパスライフを送れることを目的に活動しています。高校とは単位の取得方法や課外活動が異なる大学において、新入生を学生スタッフがサポートする「新入生サポート会」や、学部や学年の違いや学生か教職員かの枠を超えてさまざまな価値観を持つ人々があるテーマのもとで語り合う「カタリベカフェ」の企画運営を行っています。

お問合せ先: gakusei-community-peer@chiba-u.jp



コミュニティ支援



CISG (シーアイエスジー) — 国際学生会 —

イベントの運営やボランティアを通して、千葉大学に在籍している留学生の活動や、留学生と日本人学生の交流をサポートしています。

新しく入った留学生の入寮手伝いや、ウェルカムパーティーの開催、留学生が自国の歴史・文化を発表し国際理解を深めることを目的としている「Universal Festival」の企画・運営を行っています。

お問合せ先: cisg_communication@yahoo.co.jp



留学生支援

2016年に公開されて大ヒットを記録し、第40回日本アカデミー賞で7冠に輝いた『シン・ゴジラ』。そのエグゼクティブプロデューサーを務めた山内章弘さんに映画づくりのやりがいや作品のエピソード、千葉大学時代の思い出などを語っていただきました。

監督や俳優よりも長く深く 作品と関わるのがプロデューサー

— 『シン・ゴジラ』をはじめ、『orange-オレンジ-』、『神様のカルテ』、『検察側の罪人』など、数々のヒット作のエグゼクティブプロデューサーを務められています。プロデューサーとはどのような仕事なのでしょう。

山内 簡単に言うと、最初の企画段階から完結するまで、映画作品のすべてに関わる仕事です。例えば『シン・ゴジラ』では、庵野秀明さんが総監督を担当して話題になりましたが、スタッフやキャストの起用もプロデューサーを軸に決まっています。また、映画というのはコンテンツでもあるので、劇場公開して終わりではなく、DVD化やテレビ放映、グッズ展開などもありますよね。こうしたウインドウ*のタイミングや内容もジャッジする立場なので、監督や主演俳優よりも長く深く作品に関わっているといえます。映画のすべてに関わるということは、それだけ多くの人と会う仕事でもあります。私は人と会うことが好きなので、プロデューサーという仕事は天職だと思っています。— やりがいや醍醐味はどのあたりにありますか。

山内 やはり苦労して手掛けたものが世の中に出ていって反響をいただいたときですね。もちろん好意的な意見だけでなく、批判的な意見をいただくこともあります。それも含めての反響だと思っています。それと、映画というのは、誰かを元気づけたり、ある人にとって人生の大事な宝物になったり、時には人生そのものを左右することもある。おそらくこれを読んでいる皆さんも、人生のなかで大切にしている映画があるのではないのでしょうか。2時間ほどの作品に心血を注いで、そこまで人の心を揺さぶることができる。これは私にとって、大きなやりがいです。

新旧のファンに受け入れられる 新しいゴジラ作品が誕生

— 印象に残っている作品、転機になった作品はどれですか。
山内 転機にもなり、代表作だとも思っているのは『TRICK』シ



山内さんが好きな映画は、『スター・ウォーズ』、『ストリート・オブ・ファイヤー』、『街の灯』。原点に立ち返ったり自分の現在地を確認したりするために見直すこともあるそう。また、2021年に公開を予定している『シン・ウルトラマン』のエグゼクティブプロデューサーも務める。



人の心を揺さぶったり、時には
誰かの人生に影響を与えることもある。
それが映画づくりの大きな魅力。

東宝株式会社 映画企画部長
株式会社東宝映画 代表取締役社長

山内章弘

さん

山内 章弘
(やまうち・あきひろ)
1969年東京生まれ。千葉大学法経学部(現在の法政経学部)経済学科卒業後、1992年東宝株式会社に入社。ドラマ制作のテレビ部、配給作品の編成を担う映画調整部を経て2012年より現職。2017年より関連会社である制作プロダクション株式会社東宝映画社長を兼務。主なプロデュース作品に『シン・ゴジラ』、『アイアムアヒーロー』、ドラマ『TRICK』シリーズ、『マイ☆ボス マイ☆ヒーロー』など。最新作は『蜜蜂と遠雷』、『屍人荘の殺人』、『ラストレター』、『シン・ウルトラマン』など。第36回藤本賞特別賞、2017年エランドールプロデューサー賞受賞。本年より日本映画プロデューサー協会副会長。

TM & © TOHO CO., LTD.

リーズです。私が30歳になる年に企画がスタートして、ドラマが3シリーズ、映画が4本、結果的に14年間も続く息の長い作品になりました。なぜこの作品が転機だったかという、自分が面白いと思うことを企画し、それをきちんとした形にすることができ、お客さんが支持してくれた初めての経験だったから。マーケティングではない作品づくりは、堤幸彦監督から受けた影響は大きいですね。その後、プロデューサーとして多くの作品を世に送り出すことができたのも、『TRICK』あってこそだと思っています。

— もうひとつの代表作となった『シン・ゴジラ』についてもエピソードを教えてください

山内 ゴジラは、多くのファンを持つ東宝の看板映画ですが、仮面ライダーやウルトラマンと違ってテレビシリーズがないので、2004年以降の映画製作中断で、キャラクター認知の調査で人気は落ち込んできていたんですね。それで、12年ぶりに復活させようということになったのですが、縮小再生産では意味がない。エヴァでアニメの新時代を作り、特撮にも造詣の深い庵野さんと組めたところからプロジェクトは大きく進みました。『シン・ゴジラ』は、シリーズで初めてゴジラがフルCGだったり、リアリティを追及した作劇など、過去のゴジラシリーズから大きく変更した点が多かったのですが、これは企画の初期段階からの庵野さんのこだわりでした。結果的に、古いファンにも納得してもらいつつ、新しいファンも獲得するという新しいゴジラを生み出すことができました。

経験も仲間も一生の財産 積極的にいろんなことに挑戦を

— 千葉大学時代はどのような学生でしたか。当時から映画には興味があったのでしょうか。

山内 高校時代から映画は好きでしたが、実は映画を仕事にしようという気持ちはあまりなかったんです。ただ、表現活動全般に興味があり、その一環として世の中を読み解く力を身につけたいと思っていました。私は経済学科出身ですが、経済を選んだのも、社会を知るための切り口のひとつだと思ったからです。大学時代は自主映画もつくっていましたが、放送研究会に所属し、ラジオドラマの脚本を書いたり演出をしたりしていました。社会を読み解くことへの興味やシナリオの経験などは、結果として映画のプロデューサーという今の仕事につながっていると思います。

— 最後に、千葉大生へのメッセージをお願いします。

山内 学生時代しかできないことがたくさんあると思うので、いろんなことに積極的に挑戦してほしいです。今は簡単に情報が手に入る時代ですが、だからこそ苦労して身につけた知識や実際の体験の価値は大きいと思います。私は大学時代に所属した工藤秀明先生のゼミで、本や議論を通じて知識を深める方法を叩き込まれました。今にして思えば、これは主体的に社会と関わるための訓練だったんだと実感できます。また、一生の仲間を見つけられるのも大学のいいところです。工藤先生のゼミや放送研究会の仲間とは今でも定期的に会いますし、自分が戻れる場所があるというのは励みになっています。充実した学生生活を送ってください。



次世代ドローンから医療まで「流体」が拓く多様な可能性

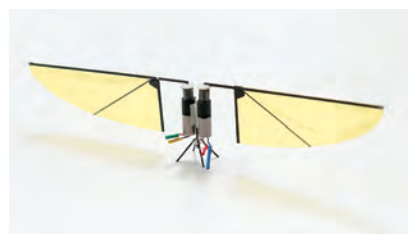
虫や鳥の飛び方を研究することで、従来とは異なるアプローチの飛行メカニズムの確立に挑戦している劉浩先生。最新の研究や今後の展望について話を伺いました。

生物の飛行メカニズムの研究を始めたきっかけを教えてください

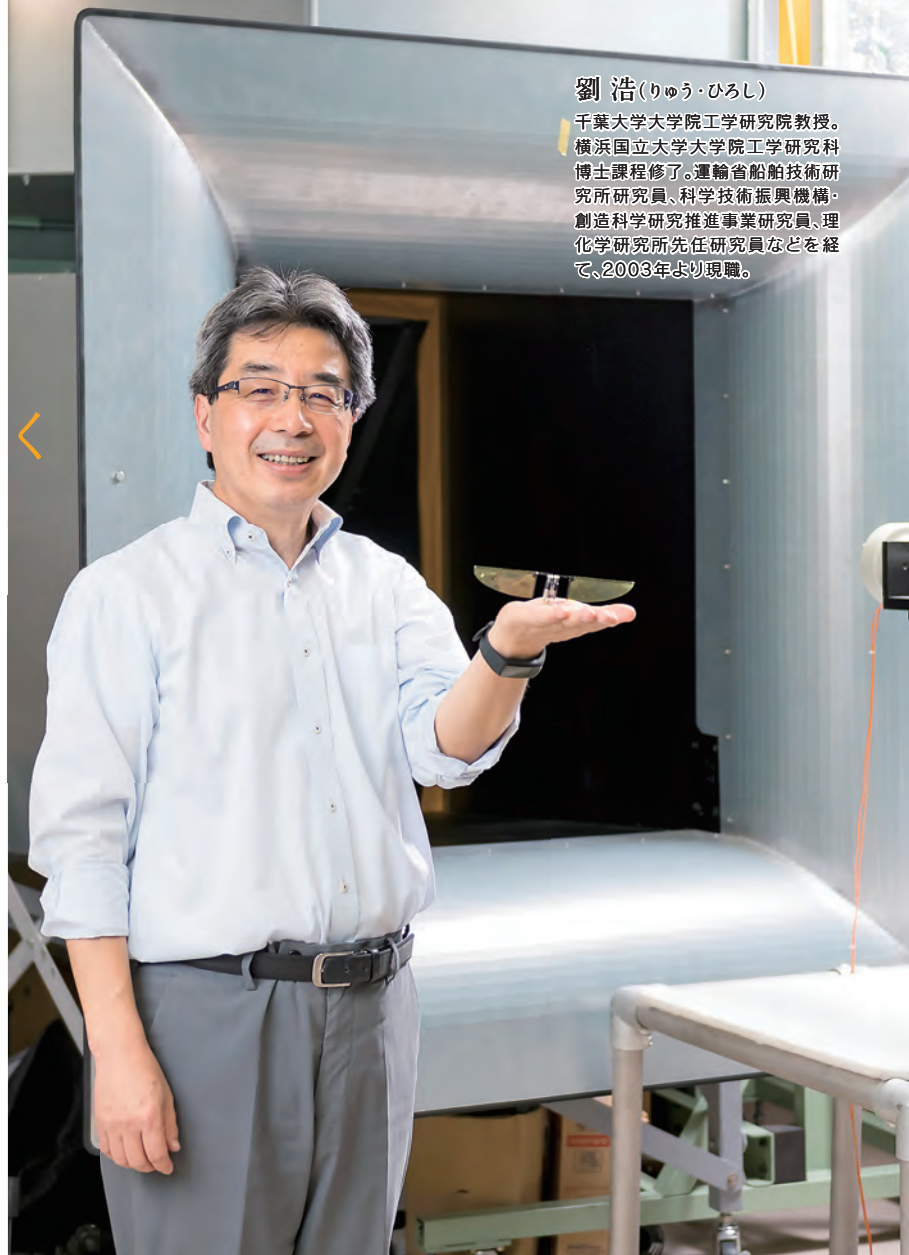
最初に就職した運輸省の船舶技術研究所で、流体力学を造船技術に活かす研究をしたのち、当時の上司の紹介で科学技術振興機構の創造科学研究推進事業という5年間のプロジェクトに参加したのがきっかけです。このプロジェクトは、虫や鳥が自由に飛ぶことができるメカニズムを研究し、飛行技術に活かそうという狙いがありました。私は、造船を通して得た流体力学の知見から生物飛行の解明に挑んだのですが、航空機が飛行するための従来の理論では生物飛行は説明が付きません。でも、難しいからこそやりがいも感じました。

難しい生物飛行の解明にどのようにアプローチしたのですか？

当時の最先端の高速ビデオカメラで撮影し、スーパーコンピュータを使って数値シミュレーションをすることで、羽ばたき運動のメカニズムを解析しました。その結果、虫や鳥は羽ばたくことで渦をつくり、渦の中と外の気圧差を利用して飛行していたことが判明しました。これは従来の航空機理論とはまったく



▲飛行ロボット
研究室で開発した羽ばたきロボット。生物飛行メカニズムの研究が進めば、次世代ドローンや新しい飛行技術への応用も期待できるという。



劉浩(りゅう・ひろし)
千葉大学大学院工学研究院教授。
横浜国立大学大学院工学研究科
博士課程修了。運輸省船舶技術研
究所研究員、科学技術振興機構・
創造科学研究推進事業研究員、理
化学研究所先任研究員などを経
て、2003年より現職。

違うメカニズムで、千葉大学での現在の研究でも、この基本原理をもとに研究に取り組んでいます。

千葉大学での具体的な研究成果や今後の展望についてお聞かせください

私が千葉大学に赴任したのは2003年ですが、2004年から羽ばたきロボットの製作に力を入れています。拡大モデルからだんだんと小型化にも成功し、2008年には実際の飛行にも成功しました。先ほどの渦を解析したメカニズムで風の影響も克服しつつあり、今後はAIやビッグデータと結びついて、よりリアルな羽ばたきロボット、さらには従来以上に静かで安全な生物規範型次世代ドローンの開発へとつながることを期待しています。また、流体研究の応用分野としては、千葉大学医学部と共同で、血液の流れをシミュレーションして医療に役立つ研究にも取り組んでいます。この研究が進めば、手術の安全性に役立つのはもちろん、将来的には健康診断に組み込

んで毎年データを蓄積し、病気の予防にも活用できるのではないかと考えています。

最後に千葉大生へのメッセージをお願いします

学生には、自分の力で考える力を身につけ、たくましく生きてほしいという願いを込めて、「be smart, be robust」という言葉を贈ります。生物飛行を研究していると、小さな虫でも辛抱強く生きていることに感動を覚えます。学生たちも、今後の研究生活やキャリアの中で、粘り強く頑張してほしいですね。



▲共同研究先の公益財団法人山階鳥類研究所の見学で、研究室メンバーと鳥の標本を観察させてもらいました。



今回のレポーター



大学院融合理工学府・先進理化学専攻共生応用化学コース博士前期課程・1年
松村 佳孝 (まつむら・よしたか) さん

参加した留学プログラム

グローバル・スタディ・プログラム(GSP)

行き先① ▶ ドレスデン応用科学大学(ドイツ) 期間: 2016.9.17~9.30
行き先② ▶ セイナヨキ応用科学大学(フィンランド) 期間: 2017.9.14~9.30

「英語を」ではなく「英語で」学ぶ

GSPは現地の学生と英語で議論し与えられた課題の解決法を共に探るプログラムで、「英語を」勉強するのではなく、「英語で」学ぶ、という点が大きな魅力でした。ドイツでは電気自動車をはじめとするE-mobilityの普及性やスマートシティをテーマに自動車会社や自治体のフィードバックを受けつつ現地の学生と協働学習を行いました。フィンランドでは市の中心部で行われている町の再開発を踏まえた「持続的かつ非排他的な都市開発」というテーマのもと、町の中心部が寂れているという問題の解決策を探りました。

現地の学生との協働学習を通じて、文化や母国語がまったく異なる相手にどの

ようにすれば伝わるかを考えながら意見を交わせるようになりました。特に印象に残っているのが、ドイツの留学先にあった13の路面電車と多数のバス路線図が非ドイツ語圏の人にとって複雑でわかりづらいことを説明したときのこと。日常的に交通機関を使っている人たちにその複雑さを伝えるのはとても難しかったです。東京の地下鉄路線図を見せるなど言葉以外のアプローチもとることで理解してもらい、その後の議論に繋がられました。

静かな湖畔で過ごした休日

フィンランドでの休日は、滞在した町近郊の湖畔でサウナに入ったあと冷たい湖に飛び込んだり、キャンプファイヤーをするなどして過ごしました。ホームステイ先

のお父さんが狩猟したトナカイのステーキを、森でとれたベリーのソースをかけて食べたことがとても印象に残っています。ドイツでの、課題を早めに仕上げて留学仲間とビール片手に歩いた夕暮れの川沿いも忘れられません。

今後は専門科目の研究で長期留学し、そして、専門分野において自分の英語がどの程度通用するのかチャレンジしていきたいと思っています。千葉大学では来年度から留学が必修になりますね。留学に対して、語学や海外生活などの観点から不安を感じる人も多くいると思います。私も当初は不安でいっぱいでしたが、現地の人々もとても優しく、仲間たちと助け合うことでかけがえのない体験となりました。皆さんもぜひ広い世界へ飛び出してみてください!



◀ 班ごとに分かれ発表の準備をしている様子



▲ ドイツにて、夕日に照らされた美しい街並みを望みながら過ごした河川敷



◀ フィンランドにて、キャンプしながら過ごした休日

留学プログラム紹介

グローバル・スタディ・プログラム(GSP)

海外の協定大学と連携し、夏季・春季休業期間中に実施する2週間程度の短期集中型国際協働学習プログラム。集中授業や事前・事後教育を通して、協定校の学生と英語を使って協働で学びます。「多民族社会」や「ロボットと社会」といった特定のテーマに関して講義を受け、現地調査を行い、ディスカッションを重ね、問題の発見や解決策の提案をワークショップ形式で行います。

詳細はこちら!

https://cie.chiba-u.ac.jp/liberl_arts/gsp.html



INFORMATION

千葉東税務署長より「感謝のことば」が贈呈

2019年7月1日、千葉大学は税務行政の運営に大きく寄与したとして、千葉東税務署長より「感謝のことば」が贈呈されました。2018年12月、国税電子申告・納税システム(e-Tax)の利用



左から、松浦事務局長、徳久学長、若林均千葉東税務署長、柳田藤盛千葉東税務署副署長

促進を図るため、千葉東税務署主催のもと西千葉・亥鼻の各キャンパスで開催されたID・パスワード出張発行では、確定申告を控えた学生や教職員が多数参加しました。

AWARD

「国際グリーンガウン賞2019」でISO学生委員会が奨励賞受賞

2019年7月10日に開催された「国際グリーンガウン賞2019」の授賞式において、環境ISO学生委員会が「学生関与部門」で奨励賞を受賞しました。国際グリーンガウン賞は、大学で行われているすぐれた持続可能性の取り組みを表彰する世界的な表彰制度で、このたびISO学生委員会は京葉銀行とのecoプロジェクトや里山保全プロジェクトなど、企業と協働して行っている持続可能性活動が評価されました。



INFORMATION

文部科学省「卓越大学院プログラム」に2プログラムが採択!

千葉大学の「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文教育プログラム」「革新医療創生CHIBA卓越大学院」の2つのプログラムが、文部科学省「卓越大学院プログラム」(2019年度)に採択されました。卓越大学院プログラムとは、各大学が自身の強みを核に国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築するものです。

EVENT

西千葉キャンパスでミツバチ体験会を開催

千葉大学では、養蜂を通じた教育・研究の実践と地域貢献を目的として、西千葉・亥鼻・柏の葉の3キャンパスでミツバチを飼育しています。2019年8月24日、工学部環境デザイン教室の学生が中心となり養蜂体験イベント「ミツバチ体験会」を開催しました。子どもから大人まで22名が参加し、養蜂場の見学や採蜜体験、キャンパス内の蜜源となる花の観察などを行いました。最後には各キャンパスで採れたはちみつを実際に試食し、参加者たちは季節や場所ごとに異なるはちみつの味わいを楽しみました。



参加者からは「ミツバチがかわいく思えるようになった」との感想も

OBOG MESSAGE

「人を助ける人生を選んだ」という誇りと責任 桐和会グループ 理事長 岡本 和久さん

人を助ける人生を選んだ

多くの人を助ける仕事がしくて、医者を目指しました。千葉大学を選んだのは、下町で育ったことが少なからず影響したのかもしれませんが。学生時代は、塾や家庭教師のバイトに力を入れていたので、定期試験では苦労しましたが、当時の教え子たちとは今でも定期的に食事を開くなど繋がっています。

卒業後は放射線科に入学し、その後、医局に残ることも考えましたが、地域も人も元気にしたいという思いから開業の道を選びました。初心を忘れず、桐和会グループに来てくれた人たちを第一に考えた取り組みを実践しています。たまの休みに山に登り、植物や昆虫の観察をしています。緑に触れるのが好きなので、私たちの施設にも緑を積極

的に取り入れています。医療や福祉の仕事は楽ではありませんが、この仕事を、この人生を選んだ以上は、皆さんに安心してもらえるよう「まごころ」を持って進んでいきます。

やりたいことを仕事にしてほしい

千葉大学が進めている「全員留学」は、異なる環境に置かれることで自分自身を客観的にみることができいい機会だと思います。時代は常に変化しています。学生の皆さんにはやりたいことをやってほしい、「チャレンジしろ」「なんとかかな」と言いたいですね。桐和会では、積極的に千葉大生を採用したいと思っています。採用後も、皆さんのチャレンジを応援する制度を用意しているので、興味のある方はぜひエントリーしてください!



岡本 和久 (おかもと・かずひさ)
 1990年 医学部卒業、医学部附属病院放射線科勤務
 1993年 篠崎駅前クリニック開院。医療法人社団 桐和会 理事長
 2005年 医療法人社団だいたい 理事長
 2007年 医療法人社団城東桐和会 理事長
 2009年 社会福祉法人桐和会 理事長
 2014年 社会福祉法人春和会 理事長



今年4月に開設した「タムス浦安病院」に「千葉大学医学部附属病院浦安リハビリテーション教育センター」を併設しました。千葉大学は高度な教育、研修、研究のフィールドを確保でき、桐和会は医療レベルの向上に繋がる新しい取り組みです。

桐和会グループ <https://towakai.com>

tums TOWAKAI UNIVERSAL MEDICAL SERVICE

1993年(平成5年)東京都江戸川区に篠崎駅前クリニック開院で創業。病院、クリニック、在宅などの医療事業と特養、老健、サ高住、グループホームなどの介護事業の融合。さらには認可保育園から乳児院までの総合医療福祉事業グループを形成。現事業所数は67、職員は3,500人におよぶ。江戸川区を中心とした東京都東部、川口市を中心とした埼玉県中南部エリアに集中的に事業を展開。今後は浦安市、市川市、船橋市を中心とした千葉県西部にも展開予定。
 tums(タムス):towakai universal medical service

もっと知りたい千葉大学

日本最初のラジオ放送は工学部の前身校から

工学部の前身校は、JR田町駅の南西にあった東京高等工芸学校でした。1924年11月に東京放送局(現在のNHK)が誕生した際、仮放送所は同校の図書室に置かれました。そして翌年3月22日、そこから、日本最初のラジオ放送が行われたのです。その後、放送局は愛宕山に移転し、7月から本放送が開始されます。そして現在、東京・田町の学校跡地には、「放送記念碑」が建てられています。(国際教養学部 見城悌治)



CHIBATOMO ものがたり 2時限



学生・若手研究者のチャレンジを支え、未来を育てる 千葉大学 SEEDS 基金

千葉大学SEEDS基金は、ご寄附のもとに、学生の生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などを行っています。次世代を担う若者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。



ホームページから寄附の申込みができます
 詳しくは <http://kikin.chiba-u.ac.jp>





燃え上がれ! 盛り上がれ!!

CHIBA
スポーツ応援団



千葉県PRマスコットキャラクターチーバくん 千葉県許諾:第A1294-4号

千葉大学は「オール千葉」の一員としてスポーツを応援しています。

INDEX VOL.49

02 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム OPERA

暮らしているだけで、健康で活動的になるコミュニティを目指す
産学協働の研究推進プログラム。

04 総合学生支援センター「ふれあいの環」^わ

学生生活を支援するピアサポートやボランティア支援を行う
千葉大生の団体「ふれあいの環」の活動を紹介します。

06 千葉大学 OBOG インタビュー

2016年公開のあのヒット映画の
エグゼクティブプロデューサーを務めたOBが登場!

08 研究室訪問

虫や鳥の飛行メカニズム解明から
次世代ドローン開発への応用を目指す。
—千葉大学 大学院 工学研究院 生物機械工学研究室—

09 ちばだいグローバルLETTERS

「英語を」ではなく「英語で」学ぶグローバル・スタディ・プログラム。
欧州2カ国での体験記をお届けします。

10 TOPICS / もっと知りたい千葉大学 /

OBOG MESSAGE 桐和会グループ 理事長 岡本 和久さん



ちばだい プレス

CHIBADAI
PRESS
千葉大学
広報誌



編集・発行 / 千葉大学 企画総務部 渉外企画課 広報室
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号
TEL: 043-251-1111 (代表) E-mail: koho-hp@office.chiba-u.jp
ご意見・ご感想をお寄せください

www.chiba-u.ac.jp

[表紙] 小林 篤史 (こばやし・あつし) さん

千葉大学
大学院融合理工学府 博士後期課程 3年
総合学生支援センター「ふれあいの環」会長



2012年の夏に「ふれあいの環」が開催していた「東北震災ボランティアツアー」に参加したことで、活動に興味を持った小林さん。その年の秋から団体に参加し、主にボランティアツアーや富岡町立小中学校支援などの震災復興支援活動や、千葉大生のボランティア活動の推進を行って来ました。2016年春からは「ふれあいの環」全体を統括する会長を務めています。震災関係のボランティアを通じて放射線に興味を持ち、現在は放射線・粒子線物理学の研究室で放射線の測定技術に関する研究に取り組んでいます。(撮影:総合学生支援センター 1F)